



住民自らの行動に結びつく
水害・土砂災害ハザード・リスク
情報共有プロジェクト

参考資料 3

防災情報の伝達の改善について他

令和3年7月7日

近畿地方整備局

防災情報伝達の改善について

近畿地方整備局

【同時発表：気象庁記者クラブ】

令和3年5月24日
気象庁 大気海洋部 業務課
水管理・国土保全局 河川計画課

「自らの命は自らが守る」社会の構築に向けて ～防災気象情報の伝え方を改善～

出水期を迎えるにあたり、住民の皆様への適切な避難の判断・行動につながるよう、防災気象情報の伝え方を改善します。

住民の皆様への適切な避難の判断・行動につながるよう、防災気象情報の伝え方を改善するため、有識者で構成される「防災気象情報の伝え方に関する検討会」や「水害・土砂災害に関する防災用語改善検討会」において、課題や改善策を検討いただき、改善策と推進すべき取組がとりまとめられました。

気象庁と水管理・国土保全局では、これらのとりまとめを踏まえ、防災気象情報が、避難をはじめとする防災対策により一層役立つよう、今出水期から別紙「防災気象情報の伝え方改善に向けた取組について」の通り取組を進めていきます。

【主な取組】

- ・「線状降水帯」というキーワードを使った顕著な大雨への注意喚起を開始
- ・台風等が接近した際に、どのような災害が想定されるのか等がより詳細に伝わるよう呼びかけ方を改善
- ・国が管理する河川の洪水予報における水位や流量の予測情報の提供について、従来の3時間先から6時間先までに延長 等

これらの取組を通して、住民の皆様への適切な避難の判断・行動につながるような情報発信、リスクコミュニケーションにつとめていきます。

【問合せ先】

気象庁 大気海洋部 業務課 小寺、松田
電話 03-6758-3900（内線 4121、4122） FAX 03-3434-9047
水管理・国土保全局 河川計画課 河川情報企画室 大坪、向山
代表：03-5253-8111（内線：35392、35394）
直通：03-5253-8446、FAX：03-5253-1602

防災気象情報の伝え方改善に向けた取組について

【 】内は実施時期

1. 令和2～3年度の検討会報告書を踏まえた取組

- 線状降水帯がもたらす降り続く顕著な大雨への注意喚起【R3.6.17～】
大雨による災害発生危険度が急激に高まっている中で、線状の降水帯により非常に激しい雨が同じ場所で降り続けている状況を「線状降水帯」というキーワードを使って解説する「顕著な大雨に関する情報」を提供。
なお、発表基準については内閣府のSIP¹「国家レジリエンス（防災・減災）の強化」と連携して検討したものを使用。
- 顕著な台風等が接近した際の呼びかけ方の改善【今出水期～】
「特別警報級の台風」や「特別警報発表の可能性は小さくなったが、引き続き警戒」などという表現を使用する場合は、大雨や暴風等によってどのような災害が想定されるのかがより伝わるよう解説を一層強化。さらに、詳細な情報を住民自ら取得してもらえよう解説を強化するとともに、安心情報と誤解されないよう、起こり得る災害や引き続き避難行動が必要とされる状況であることの解説を強化。
- 社会的に大きな影響があった現象について検証の実施・公表【今出水期～】
令和2年台風第10号と同様、多くの自治体に早めの防災対応をとっていただくとともに、多くの方に適切な避難行動をとっていただくためには、気象台等が発表する情報の信頼感を維持或いは高めていく必要がある。このため、社会的に大きな影響があった現象について検証の実施・公表を行う。
- 災害対策基本法改正及び避難情報ガイドラインの改定を受けた警戒レベル相当情報の見直し【R3.5.20～】
 - ✓ 大雨特別警報を警戒レベル5緊急安全確保の発令基準設定例として位置づけ
 - ✓ 高潮特別警戒水位への到達情報を「災害発生の切迫」を含めた「高潮氾濫発生情報」として警戒レベル5相当情報へ位置づけ
 - ✓ 国管理河川では、洪水の危険度分布（水害リスクライン）や氾濫開始相当水位等を活用した発令基準設定例を提示
- 「防災用語ウェブサイト」の開設【R3.6～】
発信者（国、自治体）と伝え手（報道機関等）で防災情報への認識を共有するため、防災情報に用いられる防災用語の意味や、その情報が発表された際に住民がとるべき行動、情報を伝える際の留意点、用語の理解を深めるための参考資料などを整理した「防災用語ウェブサイト」を開設。なお、本ウェブサイトを各地方のマスコミ各社と地方整備局、自治体等で構成する協議会等を通じて、行政機関や報道関係者等へ紹介。

¹ 戦略的イノベーション創造プログラム（SIP: Cross-ministerial Strategic Innovation Promotion Program）

- 「緊急放流」を用いたダム放流に関する通知等について【今出水期～】
緊急時に呼びかける際には、ワンフレーズでその意味が受け手に理解されるよう、関係機関への通知等において「緊急放流」を使用する。なお、ダム操作の状態に関する表現として「異常洪水時防災操作」は引き続き使用する。緊急時とは、異常洪水時防災操作に移行する可能性があるとき（実施するときを含む）であり、関係機関への通知・情報提供をはじめ、関係自治体へのホットライン、報道発表・記者会見などの場面を想定。
- 指定河川洪水予報の予測時間延長【R3. 6. 1～*】
国管理河川の指定河川洪水予報で提供している水位または流量の予測情報を、従来の3時間先から6時間先までに延長。合わせて、警戒レベル3（高齢者等避難）の発令の判断に資する「氾濫警戒情報」を、これまでよりも早い段階から発表し、警戒を呼びかける。
※すべての国管理の洪水予報河川を予定しているが、システム改修を伴うため、大雨等により改修時期を全河川あるいは一部河川について見送ることがある。

2. 令和元年度の検討会報告書を踏まえた取組

- 記録的短時間大雨情報の改善【R3. 6. 3～】
災害発生危険度が急激に上昇し、速やかな安全確保が必要な状況となっていることを適切に伝えられるように、記録的短時間大雨情報を、当該市町村が警戒レベル4相当の状況となっている場合にのみ発表。
- 「キキクル（危険度分布）」の通知サービスの細分化【R3. 6. 3～】
住民の自主的な避難の判断によりつながるよう、「キキクル」の通知サービスについて、政令指定都市については、よりきめ細かい区単位でも通知を開始。
- 警戒レベルに対応した高潮警報に改善【R3. 6. 3～】
自治体や住民が高潮警報のみで避難が必要とされる警戒レベル4に相当しているかを判断できるよう、暴風警報発表中の「高潮警報に切り替える可能性が高い注意報」を高潮警報として発表。
- 大雨特別警報（土砂災害）の改善【R3. 6. 3～】
昨年度より大雨特別警報（土砂災害）の短時間指標として運用を開始したキキクル（危険度分布）の技術を用いた新たな指標により、長時間指標で捉えていた事例も漏れなく捕捉できることが確認できたことから、今出水期より、キキクルの技術を用いた指標に統一。
- 一日先のキキクル（危険度分布）の提供【R3. 秋頃～】
台風による大雨など可能な現象について、より長時間のリードタイムを確保した警戒の呼びかけを行うため、1日先までの雨量予測を用いたキキクルを提供。

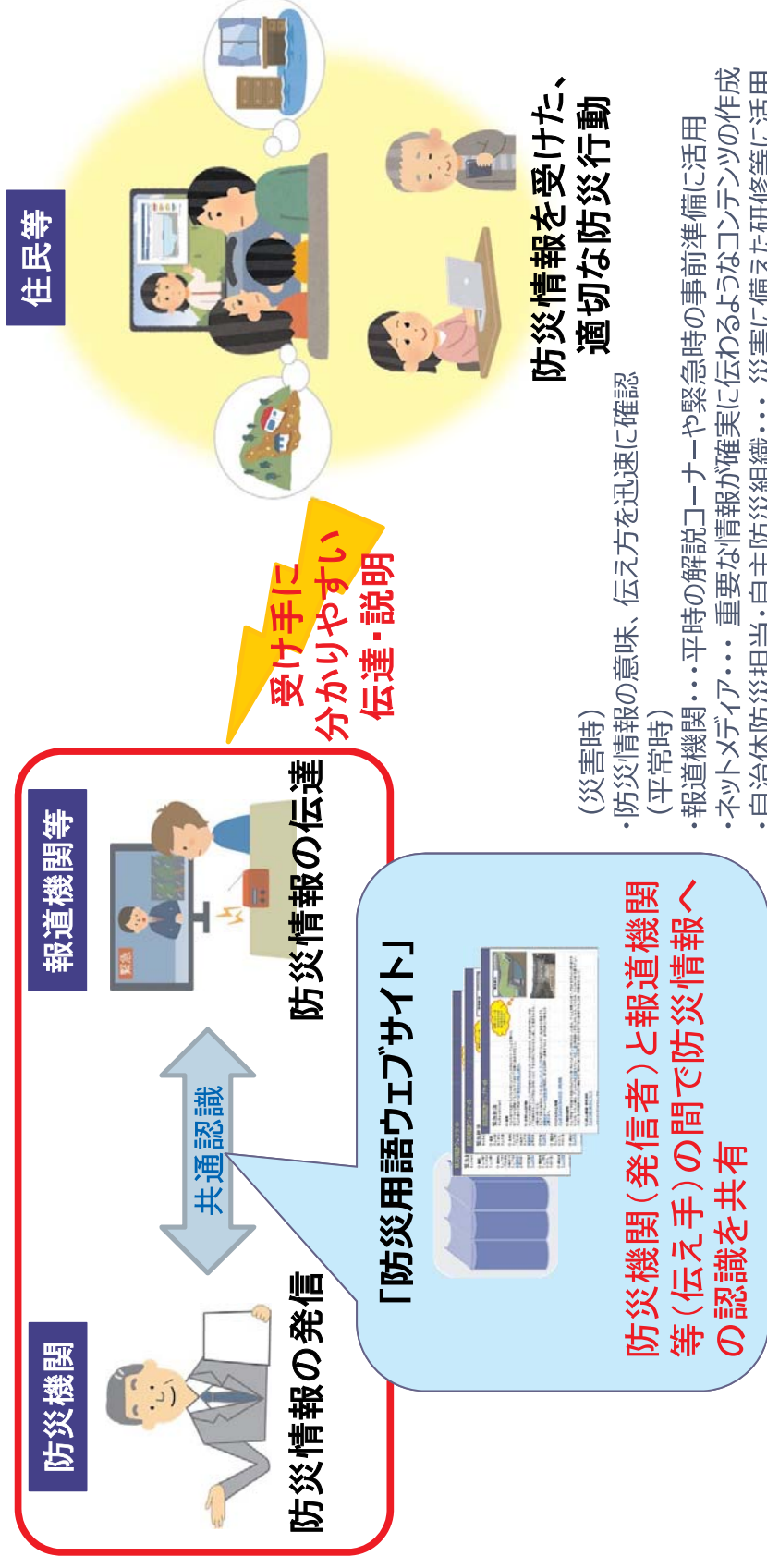
「防災用語ウェブサイト」の開設について



国土交通省

Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

- 防災情報を住民などの受け手に分かりやすく伝え、適切な防災行動を促すためには、防災情報については、防災情報について、発信者（国、自治体）と伝え手（報道機関等）の間での共通認識が重要。
- 発信者と伝え手で防災情報への認識を共有するため、パソコンやスマートフォン等により、誰でもすぐに防災情報に用いられる防災用語の意味や伝え方などを検索できる「防災用語ウェブサイト」を開設する。
- なお、本ウェブサイトを各地方のマスコミ各社と地方整備局、自治体等で構成する協議会等を通じて、行政機関や報道関係者等へ紹介。



防災用語ウェブサイト

用語 よみがな

国・自治体等が発表する、水害・土砂災害に関する情報や報道発表資料、記者会見、解説資料などで用いる用語を中心に掲載

○ 概要

水害・土砂災害について普段接することのないような方でも、その用語の意味の概略がわかるような、専門用語をなるべく使用しない簡潔に説明。

○ 求められる行動

その用語が伝えられるような状況において、今後注意すべき事項や、想定される行動。

非常時に伝えるべき、求められる行動を記載

○ リアルタイム情報

[その用語に関連するリアルタイム情報が閲覧できるウェブページへのリンク](#)

すぐに現在の状態が調べられるようリアルタイム情報のページにリンク

○ 用語の説明

その用語の意味についての正確な説明。また、情報を伝える際に理解しておくべき事項。説明文中の関連する用語については、その[用語へリンク](#)

○ 情報を伝える際の留意点

用語を伝える際に誤解を与えないよう留意すべき事項や分かりやすく伝えるための使用方法。

○ 詳しい解説・参考資料

[その用語に関連する解説ページへのリンク](#)

緊急の呼びかけ方、言い換えの表現、伝達の際の留意点など

○ 画像・動画

その用語の概要が直感的にわかりやすい図、写真、動画、地図などを掲載。

防災用語ウェブサイト

氾濫危険情報

はんらんきげんじょうほう

○ 概要

川から、いつ水があふれ出してもおかしくない危険な状況であることを伝える情報。

○ 求められる行動

警戒レベル4相当情報[洪水]。
市町村からの避難情報を確認。洪水浸水想定区域内にいる人は、河川の水位を確認して自ら避難を判断。

○ リアルタイム情報

[「川の防災情報」\(洪水予報等の発表状況\)](#)

○ 用語の説明

洪水予報または水位到達情報において、発表される情報の一つであり、水位観測所での観測水位が**氾濫危険水位**(レベル4水位)を超過した場合に発表される。

○ 情報を伝える際の留意点

危険度を明確にするため、「避難指示の発令の目安」、「警戒レベル4相当」などを付けて伝える。

○ 詳しい解説・参考資料

[洪水予報・水位到達情報について](#)

(令和3年〇月〇日作成／更新)

| 警戒レベル | 状況 | 住民がとるべき行動 | 行動を促す情報 | 警戒レベル相当情報 | 洪水に関する情報 |
|-------|--------------|------------------|------------------|-----------|----------|
| 5 | 災害発生又は切迫 | 命の危険直ちに安全確保! | 緊急安全確保※1 | 5相当 | 氾濫発生情報 |
| 4 | 災害のおそれ高い | 危険な場所から全員避難 | 避難指示 | 4相当 | 氾濫危険情報 |
| 3 | 災害のおそれあり | 危険な場所から高齢者等は避難※2 | 高齢者等避難 | 3相当 | 氾濫警戒情報 |
| 2 | 気象状況悪化 | 自ら避難行動を確認 | 大雨・洪水・高水位速報(気象庁) | 2相当 | 氾濫注意情報 |
| 1 | 今後気象状況悪化もおそれ | 災害への心構えを高める | 早期注意情報(気象庁) | 1相当 | |

※1 市町村が災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、警戒レベル5は必ず発令されるものではない
 ※2 警戒レベル3は、高齢者等以外の人も必要に応じて、警戒の行動を混合せねばならぬ危険を感じたら自主的に避難するタイミングである
 (注) 避難指示は、現行の避難勧告のタイミングで発令する

「緊急放流」を用いた ダムの放流に関する通知等について

「緊急放流」を用いたダムの放流に関する通知等について



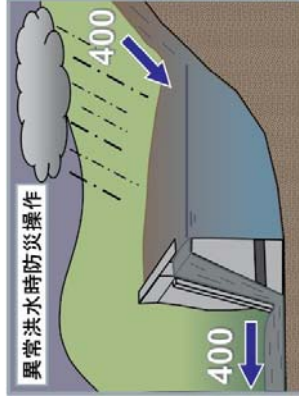
国土交通省

令和3年
出水期

- 緊急時に呼びかける際には、ワンフレーズでその意味が受け手に理解されるよう、関係機関への通知等において「緊急放流」を使用する。なお、ダム操作の状態に関する表現として「異常洪水時防災操作」は引き続き使用する。
- 緊急時とは、異常洪水時防災操作に移行する可能性があるとき（実施するときを含む）であり、関係機関への通知・情報提供をはじめ、関係自治体へのホットライン、報道発表・記者会見などの場面を想定。

緊急放流（異常洪水時防災操作）イメージ

ダムの能力を超えるような大雨によりダムが満水となり、ダム上流側から流入する水を調節することなくそのまま下流側に通過させること。ダムの操作の用語では「異常洪水時防災操作」。



緊急時の呼びかけ



関係自治体へのホットラインイメージ



出水時の記者会見

ダム放流通知の変更

【ゲート操作方式の記載例】

緊急 ○○ダム

通知（受信確認が必要）

緊急放流 ○時間前

令和○年○月○日○時○分
○○ダム管理所
発信者：○○○○

＜ダム操作に関する通知＞
○○水系○○○○ダム（○○県○○市）では、現在、防災操作（洪水調節）を行っています。
午後、計画規模を超える洪水が予測されるため、ダムに水を貯められなくなり、○月○日○時○分頃から下流に流れる水量が増える緊急放流（異常洪水時防災操作）を実施します。
そのため、洪水迎撃の対応が必要となります。
移行する場合は、おおむね1時間前にも事前通知をしますので、ダムからの連絡等に注意してください。
※今後の降雨状況により時間が前後する可能性がありますので、ご注意ください。

警戒レベル4
・ダム下流の河川で水量・水位が増加し、氾濫のおそれがあり、避難指示等の措置が必要。

【ダム情報】
現在時刻：○月○日○時○分
流入量：○○m³/s
（1時間前より約○○m³/s増加）
貯水量（有効容量）：約○○%
（1時間前より約○○%上昇）
放流量：○○m³/s
（1時間前より約○○m³/s増加）
ダム水位：EL○○○○○○m
（1時間前より約○○m上昇）

※欄はすべて連絡欄

※ダム情報のホームページ：http://www.aster.go.jp

＜受信確認＞ ○○ダム管理所 TEL：○○-○○○○○ FAX：○○-○○○○○

| 発信機関 | 発信者 | 受信時刻 | 受信者 | 受信時刻 |
|------|-----|------|-----|------|
| | | | | |

■緊急放流について
本通告での緊急放流とは、ダムの能力を超えるような大雨によりダムが満水となり、ダム上流側から流入する水をそれ以上貯留できなくなるため、ダムからの放流量をダムと同程度となるように増加させ、満水に達したらダムへの流入量をそのまま下流に通わせる操作（異常洪水時防災操作）を行うことです。

緊急に変更
（至急→緊急）

緊急放流に変更

その他情報提供

近畿地方整備局

令和 3 年 4 月 23 日
水管理・国土保全局河川計画課

河川カメラ画像のデータ配信を始めます!

～「水防災オープンデータ提供サービス」に新たな項目を追加～

国土交通省では、河川情報を民間企業のウェブサイトやアプリを通じた配信等に活用いただくため、「水防災オープンデータ提供サービス」において河川水位等のデータ配信事業を実施しています。

これまで提供してきた河川水位や雨量のデータに加え、新たに危機管理型水位計、河川カメラ画像の配信を開始します。

「水防災オープンデータ提供サービス」では、国が観測したレーダ雨量、雨量・水位等や全国の都道府県の雨量・水位、洪水予報等の河川情報数値データを、配信事業者（一般財団法人 河川情報センター）を通じて、民間事業者など受信希望者に対して有償（実費相当額を賄う範囲内）で配信しています。

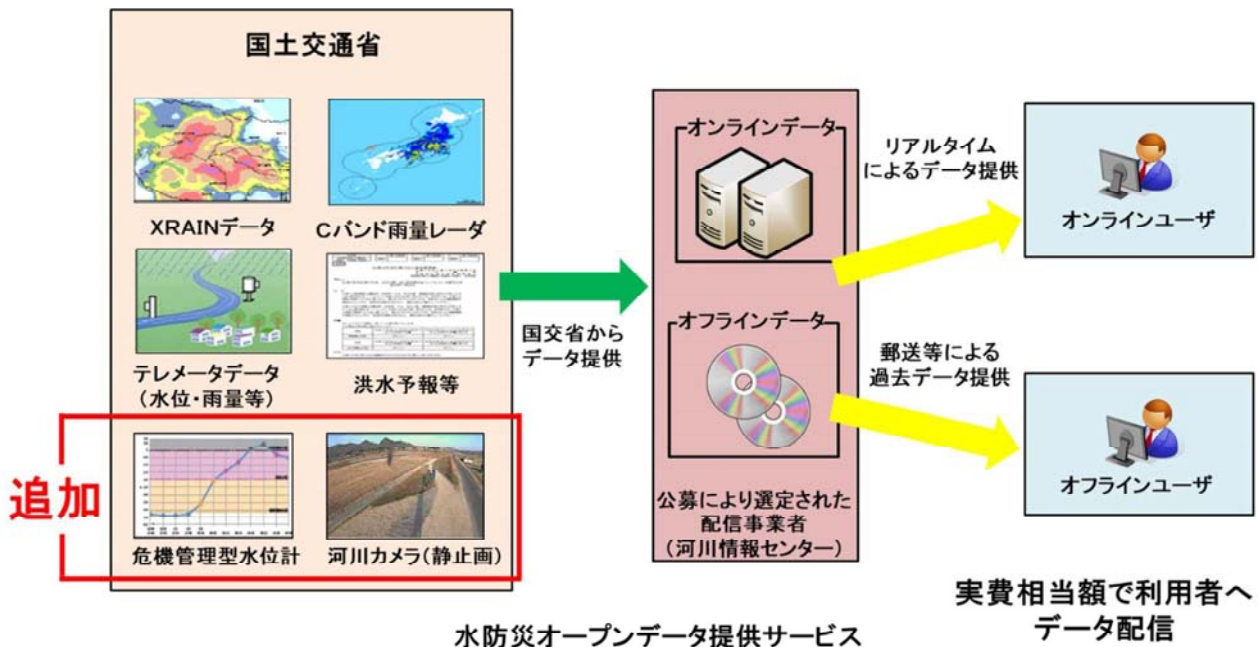
このたび、河川の状態をリアリティをもって伝えることができる河川カメラの静止画像データ（CCTV：全国約 3,000 箇所、簡易型河川監視カメラ：全国約 4,000 箇所）や近年、新たに設置を進めてきた危機管理型水位計（全国約 7,000 箇所）など、新たな河川情報の配信を開始します。

（本日より受付を開始。データの配信開始は 6 月頃を予定しています。）

データ配信を希望する方は、以下のウェブサイトよりお申し込み方法をご確認ください。

「水防災オープンデータ提供サービス」 <http://www.river.or.jp/koeki/opendata/index.html>

今後とも、広く皆様に河川情報を活用頂けるよう、利用ニーズに合わせたデータ提供の充実に取り組んでまいります。



【問い合わせ先】

国土交通省 水管理・国土保全局 河川計画課 河川情報企画室
企画専門官 大坪（内線 35392）、流域情報分析企画係長 向山（内線 35394）
代表 03-5253-8111 直通 03-5253-8446 FAX 03-5253-1602

あなたの一声で大切な人の避難を後押し!

～「逃げなきゃコール」がより多くのスマートフォン等で実施できるようになります～

「逃げなきゃコール」は、離れた場所に暮らす高齢者等の家族の防災情報を、家族がスマートフォンアプリ等によりプッシュ型で入手し、直接家族に電話をかけて避難を呼びかける取組です。

これまでNHK、ヤフー、KDDIの協力により取組を実施してきましたが、この度、新たにNTTドコモ（サービス開始は6月頃を予定）が加わり、今年度の出水期から4社で取組を進めることとなりました。

国土交通省では、より多くの方に本取組を理解いただき、災害の危険が迫った際にはご家族などへ避難の呼びかけを行っていただけるよう、参画いただいている各社と連携し、さらなる周知を図ってまいります。

逃げなきゃコール

災害時、大切な人を守るためあなたの一声で避難の後押し

あなたと相手の住む地域を登録

もしもの時は!

大切な人に電話で連絡

アプリ・サービス登録

登録した地域の災害情報通知

逃げなきゃコール

【問合せ先】

国土交通省 水管理・国土保全局 河川計画課 河川情報企画室
企画専門官 大坪(内線 35392)、流域情報分析企画係長 向山(内線 35394)
代表 03-5253-8111 直通 03-5253-8446 FAX 03-5253-1602

【「逃げなきゃコール」について】

「逃げなきゃコール」は、離れた場所に暮らす高齢者等の家族の防災情報を、家族がスマートフォンアプリ等によりプッシュ型で入手し、直接家族に電話をかけて避難を呼びかける取組です。

事前に、スマートフォンアプリやサービスの地域登録機能を活用し、離れた場所に暮らす高齢者の家族など相手の地域を登録することで、登録した相手の地域に水害などの危険が迫った際、アプリやサービスを通じて防災情報を PUSH 型で受け取れるようになります。この情報をもとに、離れた場所に暮らす家族などの大切な人に直接電話等で避難を呼び掛けることで、避難を後押しします。

本取組は、平成 30 年 7 月豪雨で、大きな人的被害が発生したことから、住民自らの行動に結びつく情報の提供・共有方法を充実させるために、情報を発信する行政と情報を伝えるマスメディア、ネットメディアにより立ち上がった「住民自らの行動に結びつく水害・土砂災害ハザード・リスク情報共有プロジェクト」の一環として、令和元年 5 月から開始されました。

これまで、国土交通省と NHK、ヤフー、KDDI によりアプリやサービスの提供や「逃げなきゃコール」の周知等の取組を進めてきましたが、この度、新たに NTT ドコモが加わり、今年度の出水期からは 4 社で取り組みを進めることとなりました（※NTT ドコモのサービス開始は 6 月頃を予定）。なお、各社のアプリやサービスの利用については、下記 URL を参照ください。

【アプリやサービスについて】

国土交通省「逃げなきゃコール」サイト

<https://www.mlit.go.jp/river/risp/policy/33nigecall.html?id=01>



逃げなきゃコール

災害時、大切な人を守るためあなたの一声で避難の後押し

あなたと相手の
住む地域を登録



もしもの時は!



大切な人に
電話で連絡



近年の豪雨災害では、避難をせずに自宅で被災した方が少なくありません。あなたのひと声が大切な人を災害から守ることにつながります。

右のアプリ・サービスは、離れた場所でも、大切な人が住む地域の災害情報を通知してくれます。

災害情報を確認し、あなたから大切な人へ避難の呼びかけをしましょう。

あなたの
「逃げて」が命を救う

各種アプリやサービスから登録した地域の災害情報が通知されます。



詳しくは **逃げなきゃコール** 検索

画面はイメージです。

家族からの「逃げて!」ですぐ行動を。



住民自らの行動に結びつく
水害・土砂災害ハザード・リスク
情報共有プロジェクト

NHK

YAHOO!
JAPAN

au

NTT
docomo

国土交通省

- 災害から命を守るためには、身のまわりでどのような災害が起きるおそれがあるのか、どこへ避難すれば良いのかなどを事前に確認することが重要です。
- 国土交通省では、防災に役立つ様々なリスク情報や、全国の市町村が作成したハザードマップを簡単かつ便利にご活用いただくため「ハザードマップポータルサイト」を公開しています。

重ねるハザードマップ (2014.6~)

様々なリスク情報を1つの地図上に重ねて表示

洪水浸水想定区域
土砂災害警戒区域等
津波浸水想定
道路防災情報

表示する情報を選ぶ
洪水 (国土交通省)
津波 (国土交通省)
工場の危険
道路の危険

「洪水浸水想定区域」、「道路防災情報」及び「避難場所」を重ね合わせて、水害時における避難ルートを検討

わがまちハザードマップ (2007.4~)

全国各市町村のハザードマップを検索

わがまちハザードマップ
~地域のハザードマップへリンクします~
各市町村が作成したハザードマップへリンクします。地域ごとの様々な種類のハザードマップを閲覧できます。

まちを選ぶ
都道府県
市区町村

洪水ハザードマップ
土砂災害ハザードマップ
津波ハザードマップ
火山ハザードマップ
高潮ハザードマップ

ハザードマップポータルサイト <https://disaportal.gsi.go.jp/>

ハザードマップ

検索



住民や水防活動従事者等の安全確保に向け、都道府県の取組を支援
～「高潮特別警戒水位の設定の手引き」をとりまとめました。～

国土交通省は、高潮特別警戒水位を設定しようとする都道府県の取組を支援するため、「高潮特別警戒水位の設定の手引き」をとりまとめました。

今後、高潮特別警戒水位の設定が進むことにより、高潮が予想される状況下における、住民や水防活動従事者等の安全の確保がより図られることが期待されます。

- 水防法に基づき、都道府県知事は、高潮により相当な損害を生ずるおそれがある海岸として指定したものについて、高潮特別警戒水位を定め、当該海岸の水位がこれに達したときは、その旨を当該海岸の水位を示して直ちに当該都道府県の水防計画で定める水防管理者等に通知するとともに、必要に応じ報道機関の協力を求めて、これを一般に周知させることが義務づけられました。
- 都道府県において進められてきた高潮特別警戒水位の検討過程で得られた知見を踏まえて、「高潮特別警戒水位の設定の手引き」(以下、「本手引き」という。)をとりまとめました。
- 本手引きに基づき、住民等の安全の確保を図るための都道府県の取組を支援してまいります。

※ なお、高潮特別警戒水位は災害対策基本法第60条及び「避難情報に関するガイドライン」(令和3年5月10日、内閣府)における警戒レベル5緊急安全確保の判断に資するものです。

<本手引きの主なポイント>

- 水防担当者による高潮特別警戒水位の設定に資するよう、水位設定に至るまでの作業手順を示し、手順ごとに詳細な内容を解説するとともに、先行的に実施している自治体の事例を具体的に紹介しています。

「高潮特別警戒水位の設定の手引き」本文は、下記ウェブサイトをご覧ください。

https://www.mlit.go.jp/river/shishin_guideline/kaigan/takashio_keikaisui_manual.pdf

【問い合わせ先】国土交通省 水管理・国土保全局 海岸室

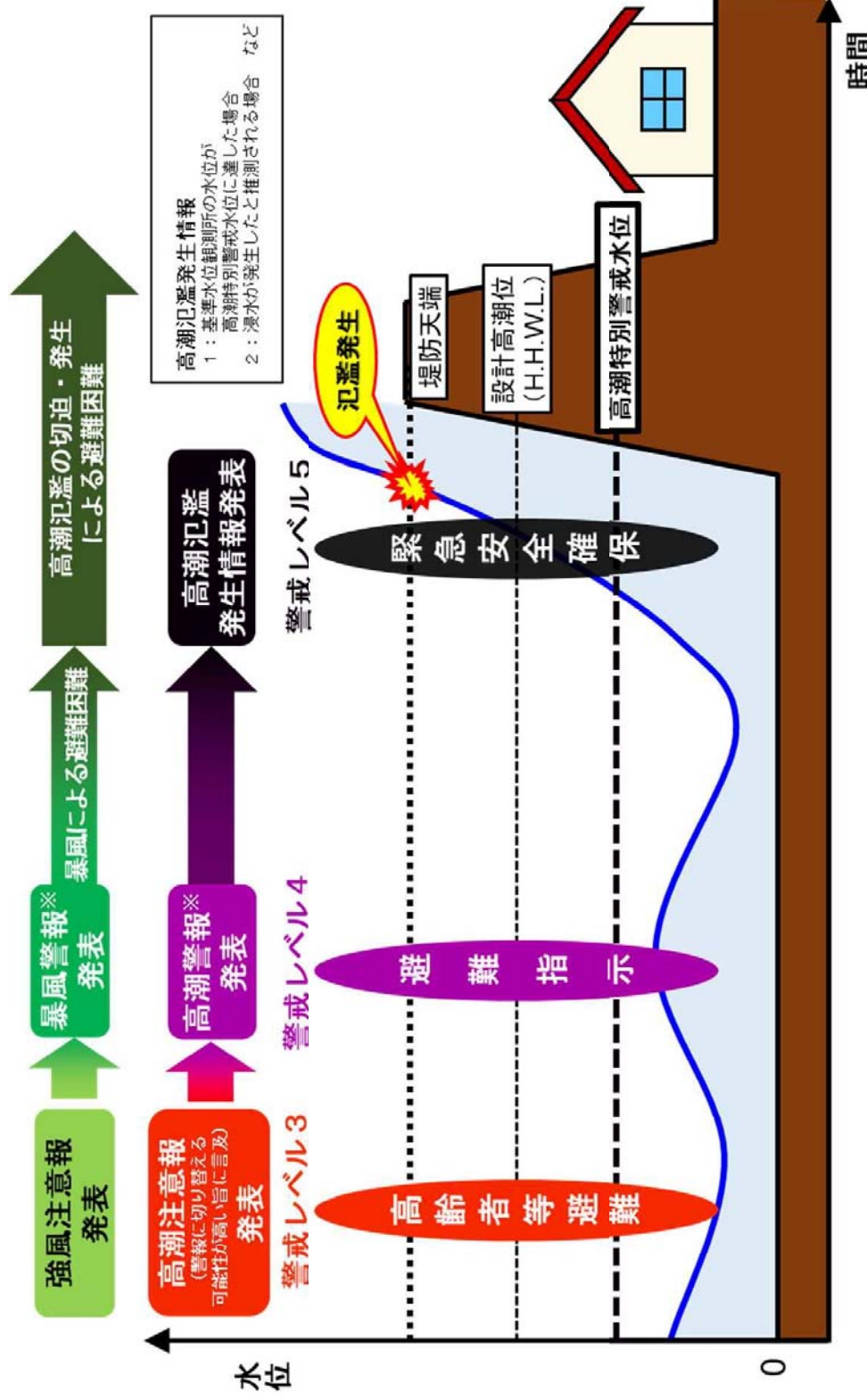
企画専門官 小川 純子 (内線：36322)

海洋開発係長 吉武 竜馬 (内線：36333)

代表：03-5253-8111 直通：03-5253-8471 FAX：03-5253-1612

高潮特別警戒水位について

- 「高潮特別警戒水位」は、水防法に基づき都道府県知事が設定するものです。
- 高潮特別警戒水位に達した際に、都道府県知事は「高潮氾濫発生情報」を發表します。
- 高潮氾濫発生情報は、高所への移動、近傍の堅固な建物への退避等を呼びかける警戒レベル5 緊急安全確保の発令の判断材料（警戒レベル5 相当情報）となります。



※数十年に一度の強度の台風や温帯低気圧により暴風・高潮になると予想される場合には、暴風警報・高潮警報はそれぞれ、暴風特別警報・高潮特別警報として發表される。

課題

資料-2-7

- 大雨特別警報の「解除」を安心情報と捉えた住民が自宅に戻った後に、上流部で降った雨が下流部に流下し、時間がたつてから氾濫が発生。大雨の後に時間差で発生する氾濫への注意喚起が必要

改善策

- 大雨特別警報解除後の氾濫への警戒を促すため、大雨特別警報の解除を警報への切替と表現するとともに、警報への切替に合わせて、今後の水位上昇の見込みなどの「河川氾濫に関する情報」を発表
- メディア等を通じて住民への適切な注意喚起を図るため、予め本省庁等の合同記者会見等による周知を図るとともに、SNSや気象情報、ホットライン、JETTによる解説等、あらゆる手段で注意喚起を実施
- 「引き続き、避難が必要とされる警戒レベル4相当が継続。なお、特別警報は警報に切り替え」と伝えるなど、どの警戒レベルに相当する状況か分かりやすく解説

大雨特別警報の切替に合わせて「河川氾濫に関する情報」を発表

今後の水位上昇の見込みなどの「河川氾濫に関する情報」を発表し、引き続き警戒が必要であること、大河川においてはこれから危険が高まることを注意喚起

国土交通省 常陸河川国道事務所 気象庁 水戸地方気象台

「大雨は峠を越えたが、河川は氾濫のおそれ」

■ 久慈川

(氾濫危険：警戒レベル4相当)

富岡観測所(常陸大宮市)では、当分の間、氾濫危険水位を超える水位が続く見込みであり、氾濫のおそれあり。

榊橋観測所(日立市)では、避難判断水位を超過しており、今後、氾濫危険水位に到達する見込み。

| 基準観測所 | 水位状況 | 今後の見込み |
|---------------|----------------------|-----------------------|
| 富岡 (常陸大宮市) | 氾濫危険水位超過 (レベル4相当) | 水位上昇中 |
| 榊橋 (日立市) | 避難判断水位超過 (レベル3相当) | 水位上昇中。氾濫危険水位 到達見込み |

メディア等を通じて住民へ適切に注意喚起

メディア等を通じて住民への適切な注意喚起を図るため、予め本省庁等の合同記者会見等による周知を図るとともに、SNSや気象情報等あらゆる手段で注意喚起を実施

